

もっと安吾を！ もっと身近に！

第2回

二イ  
ガウ

安吾賞  
2017

写真：林志彦

安吾賞とは、生きざま賞である。

新  
潟  
市

挑戦者を応援する



## 安吾の覚悟

どうしても書かねばならぬこと、書く必要のあること、ただ、そのやむべからざる必要にのみ応じて、書きつくされなければならぬ。

# 日本文化私観

## 桜の森の満開の下

### 安吾の純情

彼の手の下には降りつもった花びらばかりで、女の姿は掻き消えてただ幾つかの花びらになっていました。そして、その花びらを掻き分けようとした彼の手も彼の身体も延した時にはもはや消えていました。あとに花びらと、冷めたい虚空がはりつめているばかりでした。

### 安吾の喝

## 墮落論

墮ちる道を墮ちることによって、自分自身を発見し、救わなければならぬ。政治による救いなどは上皮だけの愚にもつかない物である。



新潟市長  
篠田 昭

新潟市出身の作家、坂口安吾の精神を具現し、さまざまな分野で挑戦し続けることで、私たちに勇気と元気を与えてくれた個人や団体を表彰してきた「安吾賞」。昨年度からは、これまで以上に市民の皆さまに身近な賞として感じていただけるよう、新潟市にゆかりがあり、安吾精神を具現されて

いる個人や団体を応援する「ニイガタ安吾賞」へと一新しました。

第2回ニイガタ安吾賞は、路地連新潟代表、日和山五合目館長の野内隆裕さんに決定しました。野内さんは、小路を歩く楽しみなど新潟市中央区の下町（しもまち）を中心とした地域の魅力発信に取り組み、まちあるきガイドをしていく中で、小路案内板や地図を自主制作しました。その後も「路地連新潟」を結成、まちあるきの休憩スポットとカフェ・資料館を兼ねた「日和山五合目」をオープンするなど、まちあるきに関する取り組みを広げてきました。

かつては注目度があまり高くなかったまちあるきを、自らの信念を貫き続けてきたことで、その取り組みや魅力が広く知られるようになり、今では多くの人が楽しんでいきます。その姿は、まさに「現代の安吾」にふさわしいと評価されました。

新潟市はこれからも、反骨と飽くなき挑戦者魂の安吾精神を発揮する「現代の安吾」に光を当てていきます。



選考委員長  
齋藤 正行

このたび、第2回ニイガタ安吾賞の選考をおこないました。多くの方からご応募をいただきありがとうございます。心より感謝申し上げます。

坂口安吾の作品の中に、戦時中発表した「日本文化私観」があります。新潟市を俗悪と批判したブルーノ・タウトの同タイトルの作品に対し、異議申し立てを

したわけです。そして、「京都の寺や奈良の仏像が全滅しても困らないが、電車が動かなくなるとは困るのだ。我々に大切なのは『生活の必要』だけで、古代文化が全滅しても、生活は亡びず、生活自体が亡びない限り、我々の独自性は健康なのである」と言い切ります。

野内隆裕氏は、早くから「路地」の中に、私たちの生活があることを説き、いろいろな活動をしてきました。ないものねだりではなく、あるもの。私たちの生活の中にこそ真実があるのだと教えてくれました。そのことがまさに「現代の安吾」に通じるものと思います。



第2回

ニイガタ

安吾五口賞  
2017



もっと安吾を！もっと身近に！



# History

## 野内隆裕の

**1968年**  
新潟市中央区下町（しもまち）生まれ。

**1997年**  
ウェブサイト「にいがたなじらねっと」を開設。  
日和山（中央区東堀通十三）のある中央区の下町（しもまち）を中心とした新潟の町の魅力発信を始める。

**2002年**  
新潟の小路に着目し、「案内板」と「地図」を自主制作し、小路の「風景の魅力」を通じた、新潟の「まちあるき」の案内を始める。

**2008年**  
「路地連新潟」を結成。  
新潟市が行政参加したプロジェクト「新潟の町・小路めぐり」に協力。まちあるきのコース・案内版・地図の制作に携わる。

**2009年**  
「日和山委員会」メンバーとして、新潟市が行政参加したプロジェクト「みなとまち新潟・日和山」に協力。日和山の再生整備に携わる。

**2010年**  
「路地連新潟」として、新潟市が行政参加したプロジェクト「みなとまち新潟・日和山（12.3m）登山」に協力。まちあるきのコース・案内版・地図の制作に携わる。

**2013年**  
「新潟の町・小路めぐり」グッドデザイン賞受賞。

**2014年**  
「みなとまち新潟・進化する日和山物語」グッドデザイン賞受賞。  
日和山の中腹に、カフェ・資料館を兼ねたまちあるきの拠点「日和山五合目 hiyoriyama coffee」をオープンさせる。  
同年「新潟観光カリスマに就任」。

**2016年**  
NHKの人気番組「プラタモリ・新潟」にて案内人を務める。  
「まちづくり功労者国土交通大臣表彰」を受賞。

# 日和山 12.3m のキセキ



2002



2009 日和山・住吉神社再生

2013  
2014

グッドデザイン賞



2014

日和山  
五合目カフェ



2017



日本遺産

「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」として日和山などが日本遺産に認定されました。

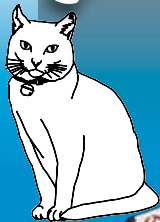


新潟港

開港150周年  
2019年、新潟港は幕末の開港から150周年を迎えます。

2019

# 時空を超える町歩き



自分の町にとって、意味のある、歴史ある場所であっても、まちの変化によって忘れられてしまう事がある様です。また、失ったものに関心は向けられがちですが、そこに残っているものの価値に気が付かない事もある様です。

「新潟の町・小路めぐり」「みなとまち新潟・進化する日和山物語」の取り組みは、見過ごされがちな町の魅力に着目した「あるものさし・みかさ」の実践例でした。先ずやってみせる。そんな小さな一歩でも、大きな進化に繋がる事が、誰かの勇気に繋がれば幸いです。

この度の受賞は、これらのプロジェクトに関わってくれた皆さん。また現在一緒に町を歩き、新潟の町や日和山（12・3m）を楽しみ、その「楽しさ」を発信して下さっている「路地連新潟」「日和山委員会」の皆さんと共に、いただけたものと、私は思っております。

新潟の町には「なにもない」のではなく、「あります」よね。これからも皆さんと共に、その「楽しさ」を発信しつつ、「進化」していけたら幸いです。

# 野内隆裕

のうち、たかひろ  
路地連新潟代表  
日和山五合目館長

# 第2回ニイガタ安吾賞



イラスト：野内隆裕





安吾賞とは、生きざま賞である。

# ニイガタ安吾賞 Niigata Anko Awards

## 野内隆裕 様

山に橋に砂に路地に潜むヒミツを  
つぶさに読み解く視線が

過去と未来を繋ぐキセキを起こし

人々の心に「にいがた愛」を灯しました

ひとりの一歩から始まった偉大な功績に

第二回ニイガタ安吾賞を贈ります

# 壁を越えて行け

# 出でよ現代の安吾

平成三十年三月二十一日

新潟市長 篠田 昭

ニイガタ安吾賞の賞状。金箔を模した背景に満月に向かって容積を増して行く「十日夜（とおかんや）」の月が配され、受賞者のさらなる高みを目指して今後の活躍を願う気持ちを表している



路地を案内する野内隆裕さん



可歩き：人情横町にて

# 第2回 ニイガタ安吾賞 音信



## 選考委員会

2017  
12/15

推薦があった46件の個人・団体の中から選考が行われた。「新潟市にゆかりがあり、安吾精神を具現されている個人や団体を応援する」というニイガタ安吾賞の趣旨を考慮し、議論が交わされた。多彩な候補者の中から「現代の安吾」を1人に絞ることは大変難しかったが、最終的には満場一致で、路地連新潟代表・日和田五合目館長の野内隆裕氏に決まった。



選考委員会：左から 江部洋人さん、大桃美代子さん、齋藤和利さん、齋藤正行さん、中野力さん

## 記者会見

2018  
1/23

篠田市長と齋藤選考委員長による記者会見が開かれた。

選考について齋藤選考委員長は、「なものねだりではなく、自分たちの地域にあるものを再発見しようというのが野内さんのコンセプト」と話し、坂口安吾が『日本文化私観』の中で、「私たちは私たちがちゃんと日本を再発見する」と申し立てたこと、野内さんのこれまで約20年の活動は等しいくらいの実績であり、ニイガタ安吾賞にふさわしいと語った。

篠田市長は、野内さんについて「NHK番組『プラタモリ』の新潟編では案内役を務められた。新潟の町のすばらしさを、まちあるきという形で世に出していただいたすばらしい方」と評した。



記者会見：左、篠田昭新潟市長 右、齋藤正行選考委員長

## 安吾年譜

明治三十九年（一九〇六）十月二十日、父仁一郎、母アサの五男として新潟市西大畑町に生まれる。（本名・柄五）西堀幼稚園、新潟尋常高等小学校（現新潟小学校）へ進む。大正八年県立新潟中学校（現県立新潟高等学校）入学。この頃から学校にもあまり登校せず、ひとり日本海に面する浜辺に寝ころんで空と海と風と波と光とを終日眺め思索した。荒蕪たる風と日本海の風景は安吾文学の原風景といえる。

余は偉大なる落伍者となつていつの日か歴史の中によみがえるであろう。大正十一年、中学三年生の九月、落第が決定的となり東京の豊山中学校三年に編入。この時、新潟中学校の机のふたに「余は偉大なる落伍者となつていつの日か歴史の中によみがえるであろう」と彫つたという。大正十四年豊山中学校を卒業。世田谷下北沢の分教場（現代沢小学校）の代用教員となり自然の中に悪童たちと遊んだ。その体験は『風と光と二十の私』になる。この頃から求道の厳しさに対する憧れが強まる。

求道者 安吾 大正十五年、東洋大学印度哲学論理学科に入学。悟りを開くため多くの哲学宗教書を読破、睡眠四時間という厳しい修行生活を一年半続け神経衰弱に陥つたが、それを梵語、バリー語、チベット語、フランス語、ラテン語などを猛然と勉強することにより克服した。

文壇デビュー 昭和六年一月、処女作『木枯の酒倉から』を発表。五月『ふるさと』に寄る讃歌、六月『風博士』を発表、牧野伸一が激賞。七月『黒谷村』を発表、島崎藤村などが賞賛し、新進作家として文壇に認められる。昭和七年の夏、新進女流作家の矢田津世子を知り烈しいプラトニック

ク・ラブに陥り、安吾は懊悩し酒場のママムなどと同棲するデカダンスな生活を重ね、四年後ようやく彼女と訣別を決意。昭和十三年、新たな決意のもと執筆した長編『吹雪物語』は酷評され、安吾は自分に絶望し、転居を繰り返し自らを孤独の淵に置きながら、どん底の淪落の生活を送る。しかし『紫大納言』（昭和十五）、『木々の精谷の精』（昭和十五）などの新境地をひらく。

小菅刑務所・ドライアイス工場・軍艦に見いだす必然の美 昭和十七年、国粹主義の時代、大胆な『日本文化私観』を発表し、伝統文化を呑み込むことへの欺瞞を指摘した。

落ち切ることにより真実の救いを発見せよ 昭和二十一年、敗戦後の昏迷の中でいち早く戦後の本質を洞察し、四月『墮落論』、六月に『白痴』を発表。この二編は、若者を中心に戦後虚脱していた日本人に強い衝撃を与えた。戦前戦中の倫理観を捨てた新たな生き方を指し示す革命的宣言は希望の書となり、『墮落論』によって戦後の日本が再スタートした。昭和二十二年『風と光と二十の私』、『桜の森の満開の下』、『不連続殺人事件』、『青鬼の禪を洗う女』を発表。

戦う安吾 昭和二十五年、『安吾巷談』を連載し、戦後のタブーに挑戦する。昭和二十六年国税局と税金滞納、差押えをめぐる『負けラレマセン勝ツマデハ』を発表。税金闘争をひとり戦い抜き、同年九月には競輪不正事件で自転車振興会を相手どり戦う。『夜長姫と耳男』（昭和二十七年）発表。

急逝 昭和三十年（一九五五）二月十七日、古代史の雄大な構想とともに、原風景に由来する創造活動に意欲を燃やしはじめた矢先に、桐生の自宅で脳溢血で急逝した。享年四十八

# ニイガタ 安吾賞

もっと安吾を！ もっと身近に！



## 第2回 ニイガタ安吾賞選考委員

### □委員長

齋藤 正行

安吾の会世話人代表  
新潟・市民映画館シネ・ウインド代表

### □副委員長

大桃 美代子

タレント

### □委員

江部 洋人

一般社団法人 新潟青年会議所  
2017年度理事長

越乃 リュウ

元宝塚歌劇団月組組長

齋藤 和利

株式会社 BSN ウェーブ 代表取締役社長

中野 力

新潟市文化スポーツ部長

## 第2回 ニイガタ安吾賞授賞式

2018年3月21日(水・祝)

新潟市民プラザ



第2回 受賞者

野内 隆裕

路地連新潟代表  
日南山五合目館長



第1回 受賞者

高橋 治儀

高儀農場 代表取締役

## 安吾賞の軌跡 2006～2015

### 安吾賞

### 新潟市特別賞

01



野田 秀樹  
劇作家・演出家・俳優



横田 滋  
横田早紀江  
拉致被害者家族連絡会代表

02



野口 健  
アルビニスト



カールベクス  
建築デザイナー

03



瀬戸内 寂聴  
作家・僧侶



近藤 亨  
NPO ネパール・ムスタン地域開発協力会理事長

04



渡辺 謙  
俳優



野坂 昭如  
作家

05



ドナルドキーン  
日本文学・文化研究者



月乃 光司  
「こわれ者の祭典」代表

06



荒木 経惟  
写真家



能登 剛史  
「いがた総おどり」副会長・総合プロデューサー

07



若松 孝二  
映画監督



天野 尚  
写真家

08



会田 誠  
美術家



大友 良英  
音楽家

09



草間 彌生  
前衛芸術家・小説家



coba  
アコーディオニスト・作曲家

10



佐藤 優  
作家・元外務省主任分析官



外山 陽子  
新潟県女子体育連盟会長

肩書きはいずれも受賞当時

■ ニイガタ安吾賞事務局  
〒 951-8550 新潟市文化政策課  
TEL. 025-226-2563 FAX. 025-226-0066  
E-mail bunka@city.niigata.lg.jp

■ ニイガタ安吾賞 URL  
<https://www.city.niigata.lg.jp/info/bunka/niigata-ango/>  
■ 坂口安吾デジタルミュージアム URL  
<http://www.ango-museum.jp>